

## 2021 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	大阪大学医学系研究科	助成金額	50 万円
氏名	李 姫姫		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）			
デジタル・エンパワーメント・システムの構築による地域高齢者の健康・福祉格差是正の可能性～ポスト・コロナ時代を見据えたより良い健康平等の推進体制に向けて			
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）			
<p><b>【背景】</b></p> <p>近年、ICT の普及、特に新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ICT を活用する場面が増えており、今後のデジタル社会では ICT 活用の影響が大きくなることが予想される。そこで、ICT が健康面に与える影響についても検討されてきた。しかし、デジタル化の進展に伴い、デジタル弱者は取り残され、そこから生じる新たな社会的不平等が深刻化する恐れも考えられる。特に、病気にかかりやすい高齢者層の ICT 利用率は若年層に比べて低く、健康格差が高まる可能性があるが、高齢者を対象者とした ICT 利用の実態や、その利用活用と健康格差に関する研究は現状では少ない。このような状況に対応するため、私は本助成を活用し、これまでの研究活動を踏まえ、高齢者の ICT 活用と健康面の関係についてデータを掘り下げた分析を行い、デジタルエンパワーメント推進に資する知見を得るための活動を行った。</p> <p><b>【活動の内容と成果】</b></p> <p>活動の内容は以下の 3 つであった。(1) 超高齢化社会の喫緊の課題となっている要介護予防対策の知見を得るため、私のいままでの研究活動で得たデータをもとに、高齢者の ICT 利用活動とフレイルの関連性、およびその性差について、解析を行った。その結果、社会的交流のための ICT 利用は低いフレイルの発生確率と関連していると認められた。また、女性群のみにこの関連があったため、ICT 利用の影響には男女差も認められた。ほか、まだ解析途中ではあるが、一部の共変量を調整した結果、高齢者の ICT 利用と高い認知機能との縦断的関連の可能性も分かった。この関連の可能性は、さらに検討する価値があると考え、続いて解析していく予定である。(2) 1 回にわたり大阪府農村地域に住む高齢者グループの活動現場を訪問し、高齢者のスマートフォン利用に対する考えや悩みについてヒアリングした。そのため、地域における高齢者のデジタル活用の実態をより深く理解することができ、今後の研究のヒントを得た。(3) 研究成果の普及のために、ゲストとして日本社会学会国際交流委員会が企画した「COVID-19 and society」テーマセッションで研究を報告し、日米中等の国際の研究者達とコロナ時代における健康面の社会問題についてディスカッションを行った。来年は、国際老年学会での発表や国際誌へ投稿の予定があり、研究成果の発信がさらに広がることが期待される。</p> <p><b>【今後の活動】</b></p> <p>健康平等・福祉向上を効果的な推進に資する強いエビデンスを得るため、今後も継続してデータ収集および分析を進めていて、縦断的、因果関係等の検討をする予定である。</p>			
助成金の使用金額及び使途			
<p>解析用 PC 購入：約 9 万円          国内・国際学会の入会費及び参加登録費：約 7 万円          英語校正、翻訳ツール等のソフトウェア購入：約 4 万円          保存メモリ、事務用品等の消耗品：約 1 万円          書籍：約 5 万円          合計：約 26 万円          助成金の残金は、来年の国際学会へ参加の旅費と論文投稿に使う予定である。</p>			
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）			
<p>Yaya Li "Associations between internet use and frailty among Japanese adults: the power of socialization" in JSS's Thematic Session "COVID-19 and Society", 12th Nov., 2022          国際老年医学会にて演題登録した          国際誌投稿するため、現在原著論文を作成中</p>			